

日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 課題研究

「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と  
通言語的学習達成度評価法の総合的研究」  
(2012年～2014年) の総括および成果

研究代表者 富盛伸夫

1. 本研究プロジェクトの概要
2. 研究組織など
3. 研究体制と活動内容など
4. 今後の研究の展望
5. 本研究プロジェクトの研究活動一覧
  - 5.1 講演会・シンポジウム・研究会等 (共催等を含む)
  - 5.2 海外調査等一覧
  - 5.3 運営会議一覧

1. 本研究プロジェクトの概要

我が国の高等教育機関では、世界諸地域の人々と協働するグローバル・インターフェース力を持ち地球的課題に取り組むことのできる人材の養成が重点化されて、組織改編や予算要求の場面ごとに政策的に誘導されている。現在の日本において、まずは英語の実用能力が強調されるのは理解できるとしても、世界各地の現地の言語や文化的特質を希薄化してはならないことはもちろんである。しかるに、特に日本と密接な関係にあるアジア諸語の普及はさほど進まず、また必要となる教育法の統合的な開発も個別言語の枠を越えてはほとんど着手されていない。さらに通言語的成績評価の透明性は確保されているとは言い難い状況である。

さて、ヨーロッパ連合 (以下、EU) では、EU 統合への要として構想された言語政策のひとつ、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFR) は、10年以上の実施期間を経て現在では実用域に入りつつある。同時並行的に 2000 年以来、EU 域内の大学等高等教育で強力に推し進められてきた教育制度の改革「ボローニャ・プロセス」で、各国独自に展開されていた高等教育が標準化され、劇的に変容しつつある<sup>1</sup>。その中でも外国語教育分野での改革は目を見張るものがあり、学生の域内モビリティが高まる状況下で、言語能力評価基準の共通性を掲げた CEFR の適用は理論面・実践面ともに急速に進んできた。反面、EU

<sup>1</sup> ボローニャ・プロセスの概要などについては、東京外国語大学国際学術戦略本部 (OFIAS) (2008) 『東京外国語大学国際学術戦略本部 (OFIAS) 調査レポート・資料集 I』 (新井早苗編著) 参照。  
(<http://ofias.jp/j/strategy/bologna.html>)

においては、アラビア語、中国語、日本語等、いわゆる非印欧語への CEFR の適用可能性の研究は一定範囲でなされているものの、その困難さは文字体系・音声・文法の隔たり等のために、CEFR の拡大版、あるいは通言語的測定尺度がまだ有効なものとしては設定されていない。この面では日本やアジア諸国の我々研究者が、研究領域を先鋭化して、CEFR を包括するような新たな国際的な共通枠組みを開発・提案する可能性を持っている。

本研究プロジェクトでは、EU の言語政策・言語教育政策をターゲットにした過去 2 件の科学研究費補助金基盤研究 (B) による共同作業を経て、その発展的展開として、アジア諸語を含む通言語的言語能力測定尺度の研究に向かってきた。本研究のメンバーは先行する科研グループの中核的構成員であり、我々の研究開拓へと向かう問題意識も同時進行的に展開・深化してきた。

そこで本研究プロジェクトの問題設定と範囲は以下のように概念化し、年次計画の活動計画に盛り込まれた。

- (1) まず EU 域内言語圏の諸言語のみならず、それ以外の言語圏、特に音声・文構造・語彙・談話構造など各レベルで多様な言語特質を持つアジア地域の諸言語に研究対象を拡大し、これにより、より汎用性の高い言語能力評価システムの開発に取り組むこと。
- (2) このため、アジア各国の主要な大学等高等教育機関での言語教育法を調査した上で、通言語的かつ透明性の高い、妥当な言語能力測定尺度を構想し、アジア諸語への適用可能性を研究することを作業目標とした。具体的には、特にアジア諸国の大学等での CEFR 適用状況を調査し、CEFR を批判的に援用した通言語的共通参照基準のモデル化を試み、これをアジア諸語に適用して、教育現場で再検証する方向をもつこと。
- (3) 大学教育など高等教育レベルに加え、中等教育及び生涯教育や非公式教育サービスなど現代社会のニーズにも対応すること。本研究に参加する研究者は言語研究者であるとともに、中等教育・高等教育において外国語教育の実践者であるので、理論・開発と検証作業を行いつつ、アジア諸語の言語教育方法と評価法の新たに開発し研究成果を広く社会的に還元すること。

以下に、本研究の概要と活動内容を紹介しつつ、研究の新たに向かいうる方向性を示唆して、成果報告としたい。

この報告書でまとめている研究成果は筆者が冒頭の「はしがき」で紹介したように、日本学術振興会科学研究費助成事業の支援による基盤研究 (B) 課題研究「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」(Comprehensive Study on Language Education Methods and Cross-linguistic Proficiency Evaluation Methods for Asian

Languages)<sup>2</sup> (2012年度～2014年度、課題番号：24320104、代表者：富盛伸夫)で遂行された研究活動の後半期間、すなわち2013年度の一部と2014年度に得られた知見を公開するものである。本研究プロジェクトの前半の活動については、2014年3月に刊行した中間報告書、『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 — 中間報告書(2012-2013) —』(研究代表者富盛伸夫、東京外国語大学、平成26年3月、125ページ)として刊行し、Webでも発信している<sup>3</sup>。この「総括と成果」では、中間報告書に詳述されている本科研の全体構想とプロジェクト研究体制の形成や経緯などについては重複を避け、研究期間の最終年度である2014年度の活動を中心にその成果を研究計画に対応してまとめ直し、公開するものである<sup>4</sup>。

なお、研究の分野・範囲を示すキーワードを記すと以下のとおりである。(順不同)

- |           |            |             |            |
|-----------|------------|-------------|------------|
| (1) 高等教育  | (2) CEFR   | (3) 外国語教育政策 | (4) 言語能力評価 |
| (5) アジア諸語 | (6) 言語能力検定 | (7) 多言語文化社会 | (8) 言語教育法  |

## 2. 研究組織など

本研究グループは、先行する2つの科学研究費補助金による共同研究のメンバーを中核に、新たな研究目的と範囲に適した次のような共同研究者・研究協力者から組織されている。

研究組織の区分	氏名	所属研究機関・職名	役割分担
研究代表者	富盛伸夫	申請時 東京外国語大学 大学院総合国際学研究院・教授 (現在 名誉教授)	研究統括及び外国語教育政策、 フランス語能力評価法・ 生涯教育
研究分担者	高垣敏博	大学院総合国際学研究院・教授	スペイン語教育
研究分担者	根岸雅史	大学院総合国際学研究院・教授	英語教育統括、能力評価法研究
研究分担者	成田 節	大学院総合国際学研究院・教授	ドイツ語教育
研究分担者	三宅登之	大学院総合国際学研究院・教授	中国語教育
研究分担者	藤森弘子	留学生日本語教育センター・教授	日本語教育学、第二言語習得論
研究分担者	上田広美	大学院総合国際学研究院・准教授	カンボジア語教育
研究分担者	萬宮健策	大学院総合国際学研究院・准教授	ウルドゥー語教育
研究分担者	川上茂信	大学院総合国際学研究院・准教授	スペイン語教育

<sup>2</sup> 中間報告書の裏表紙に印刷した本課題研究の英語訳には、Comprehensive Study on Language Education Policies and ...とあったが、本報告書では「言語教育法」に対応させて、Comprehensive Study on Language Education Methods and ...に訂正した。

<sup>3</sup> [http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA\\_kaken/houkokusho.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA_kaken/houkokusho.html)

<sup>4</sup> 本報告書の内容は、Web上でも、東京外国語大学語学研究所のサイト内にリンクされた本科研のホームページ ([http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA\\_kaken/index.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA_kaken/index.html)) 上で、PDF形式にて同様の内容を掲載するので参照していただきたい。

研究分担者	岡野賢二	大学院総合国際学研究院・准教授	ビルマ語教育
研究分担者	南 潤珍	大学院総合国際学研究院・准教授	朝鮮語教育
研究分担者	野元裕樹	大学院総合国際学研究院・講師	マレーシア語教育
研究分担者	田原洋樹	立命館アジア太平洋大学・准教授	ベトナム語教育
研究分担者	拝田 清	四天王寺大学教育学部・准教授	言語政策、英語教育学
研究分担者	矢頭典枝	神田外語大学外国語学部・准教授	カナダの言語政策
研究協力者	山崎吉朗	日本私学教育研究所・専任研究員	中等教育連携、フランス語教育
研究協力者	降幡正志	大学院総合国際学研究院・准教授	インドネシア語教育
研究協力者	山本真司	大学院総合国際学研究院・准教授	イタリア語教育
研究協力者	丹羽京子	大学院総合国際学研究院・講師	ベンガル語教育
研究協力者	ウントゥン・ユ オノ	国立インドネシア大学・講師	インドネシア語教育
研究協力者	ウィチャイ・ピ アンヌカチョン	東京外国語大学・教員	タイ語教育

以上の研究参加者は、上記の問題設定に対応した、3つの研究班を組織し活動を推進してきた。各メンバーは専門研究領域において計画遂行に向けて協働するが、部分的な研究遂行上の問題があった場合には、各班内部で分担者が調整の責任を持ち、全体的な研究遂行の管理・調整は運営会議の議を経て代表者富盛伸夫が総括的責任を担うこととした。

### 3. 研究体制と活動内容など

以下の研究体制と活動内容については、下記5章の活動一覧、および中間報告書と本報告書に掲載された調査報告なども参照していただきたい。なお、多くの分担者は国内外の場において成果発表を行っているが、詳細は割愛した。(以下、敬称略)

- (1) アジア諸国における外国語教育法・外国語能力評価基準・測定方法に関する調査研究：  
 (A 班) 主としてアジアの諸大学での外国語教育システム立案者や言語教育従事者（教師等）に対する聞き取り調査を含み、共同研究交流を行うとともに、現地調査により、Web や二次資料の情報では得られない信頼度の高い情報が入手できた。  
 藤森（日本語担当、2012年11月派遣、2013年2月研究会報告）<sup>5</sup>  
 田原（ベトナム語担当、2013年2~3月派遣、同5月研究会報告）  
 南（韓国語担当、2013年5月派遣、同7月研究会報告）  
 野元（マレーシア語担当、2013年9月派遣、同12月研究会報告）

<sup>5</sup> 派遣先、期間、および研究会などにおける調査報告は、中間報告書と本報告書の報告部分、および第5章の活動一覧を参照されたい。(以下同じ)

岡野(ビルマ語担当、2013年9月派遣、同12月研究会報告)

萬宮(ウルドゥー語担当、2014年2月派遣、同6月研究会報告)

(2) EU、カナダ、オセアニア圏諸国の外国語能力評価システムの最新動向調査と通言語的透明性の検証:

(B班) 本研究計画全体の基礎的作業として、現在EUで進められている外国語能力評価基準CEFRの浸透度に関する高等教育機関等での最新の取り組み状況を調査した。日本の教育機関においてもCEFR基準の高等教育への適用について調査と検証作業を行った。特に、CEFRに代表されるコミュニケーション達成能力の通言語的尺度と従来の言語構造の学習進度に即した基準との相関を研究し、成果をA班と共同の研究集会で精査した後、国内外の学会で成果発表をおこなった。

高垣(スペイン語担当、2013年2~3月派遣、2013年5月研究会報告)

拝田(オセアニア地域担当、2013年3月、8月派遣、2013年9月研究会報告)

根岸(CEFR・英語担当、2014年4月派遣、2015年3月研究会報告予定)

矢頭(世界英語変種研究担当、2014年2月派遣、2014年9月研究会報告)

富盛(総括、CEFR調査担当、2014年12月派遣、2015年3月研究会報告予定)

加えて、2014年10月より富盛を中心に分担者・協力者・研究補佐等のチームにより、英語のみならずアジア諸語を含む非EU言語の学習者を対象に、CEFR項目の再検討を目的とした、言語能力自己評価調査を実施したことが特筆されよう。合計23外国語の学習進度とCEFRレベルの対応をみるために、東京外国語大学、神田外語大学、四天王寺大学等の外国語科目学習中の学生を対象に、本チームが独自に開発した能力記述項目(Descriptors)からなる質問票を用意し、A1とA2レベルについてそれぞれ740人、736人、延べ1476人のデータを収集して、現在分析中である。同程度の学習時間に対して、いわゆるEU言語の類型論的特質(文字、音声、統語構造や構文等)との相関、また、特にアジア諸語に深く関与する社会・文化的コミュニケーション上の語用論的要素(依頼、断り、提案、売買行為ほか)が加わる項目についての有意差が抽出できそうな傾向が見られる。詳細については、本報告書第二部の富盛伸夫とソ・アルムによる報告(pp.113-126)を参照されたい。

(3) 日本の大学教育、中等教育及び社会的ニーズに対応した外国語能力到達度評価基準に関する研究:

(C班) 中等・高等教育機関においてアジア諸語を含む外国語科目の単位認定・教材・学習への活用実態などや、文科省他の言語教育政策の動向などを調査した。東京外国語

大学の教員チームを主力にした CEFR-J や東京外国語大学留学生日本語教育センターの「JLC 日本語スタンダード」の開発には、本研究プロジェクトのメンバーも参加しており、深い連携が得られている。

山崎（中等教育との研究連携担当、国内出張、2012年6月、2013年7月研究会報告）

富盛（社会連携担当、2012年11月、2013年2月研究会報告）

藤森（日本語教育担当、2014年2月研究会報告）

(4) 上記の他、国際連携研究コンソーシアム参加大学はじめ、国際・国内の研究連携組織との研究協力体制の構築・遂行につとめ、言語能力評価法分野の専門家との共同研究がなされた。

- ・ 2013年3月東京外国語大学言語社会教育センターとの共催による国際シンポジウム「外国語教育と異文化間教育」では、シンガポール国立大学 Wai Meng CHAN（言語研究センター所長）、鳥飼久美子（立教大学教授）、石川慎一郎（神戸大学教授）、吉田一彦（宇都宮大学教授）、ウントゥン・ユオノ（インドネシア大学講師）、丹羽京子（分担者）、Joan Marbeck（マレーシア・Kristang 語研究者）、Mario Nunes（中国・マカオ大学教授）、Pierre Guisan（ブラジル・リオデジャネイロ大学教授）各氏を講師に言語教育と社会・文化的要素の相関性を考察した<sup>6</sup>。
- ・ 2015年1月東京外国語大学語学研究所との共催による国際シンポジウム「CEFR の非 EU 諸国への拡大 - その展望と問題点 -」（Expansion of CEFR into non-EU countries: perspectives and problems）を開催し、Catherine Matsuo（福岡大学教授）、Monika Szirmai（広島国際大学教授）、Mijin Won（韓国・延世大学准教授）各氏を招聘講師として、CEFR の世界的展開に伴う、言語教育と異文化間コミュニケーションの理論面・実際面の問題を議論した。（本報告書の第一部を参照されたい。）
- ・ 海外の専門的知識の提供者による研究会・講演会開催等の研究協力を以下に挙げる。  
Mihai Theodora（東京外国語大学外国語学部）「CEFR をめぐる EU の最新動向およびルーマニアの主要大学における CEFR 導入の現状」（2012年11月研究会報告）  
Naoko Witzel（テキサス大学アーリントン校准教授）「Unmasking bilingual lexicon」（2013年6月講演、共催）  
Van, Sovathana（カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教授）  
「外国語としてのカンボジア語教育」（2013年9月講演）  
Herberts, Kjell & Malmio, Kristina「ヨーロッパの多言語・多文化社会：フィンランドにおけるスウェーデン語文化」（2013年11月講演、共催）

<sup>6</sup> 富盛伸夫（編集代表）「外国語教育と異文化間教育」『国際シンポジウム報告集 2013』所収。東京外国語大学、世界言語社会教育センター刊、2014年3月、pp.55-227.

Jantunen Jarmo (ユヴァスキュラ大学人文学部教授)「フィンランドにおける言語教育と言語能力評価システム - CEFR との関連で -」(2012年11月講演)

Murshed, Sikder Monoare (ダッカ大学言語学科教授)「バングラデシュの言語状況と言語教育政策について」(2013年9月講演)

- ・ 本研究プロジェクトの成果発信は国内外で行っている。海外での発表は次の通り。  
藤森(国際日本語教育・日本研究シンポジウム、香港大学、2012年11月)  
拝田、野元、富盛(第5回シンガポール国立大学言語研究センター主催  
国際シンポジウム ClaSIC2012、国立シンガポール大学、2012年12月)  
根岸(ALTE 5<sup>th</sup> International Conference, Paris, 2014年4月)

#### 4. 今後の研究の展望

本研究プロジェクトを通して実施したアジア地域への現地調査では、英語教育と日本語教育の一部を除いてはCEFR そのものへの理解度が高くなく、能力レベル設定に便利な国際的な標準という受け止め方が多く、国ごと、言語ごとの評価基準に変えて、あえて導入する必要性が感じられなかったのが現実である。各国においては社会の中での言語教育のもつ位置づけそのものが大きく異なることと、現場では言語能力評価システムの開発までの余力がないことも実情としてある。

注目したいのは、一部の個々の教師・研究者グループでは開発研究の取り組みがなされ、すでに日本・台湾・中国・韓国などでは、本科研で企画したような国際研究集会在開催され、そこではEUの研究者とのリンクも強まりつつあることである。日本の教育政策が現在、「国際化」から大きく「グローバル化」への舵を切りCEFRが学会会議や文科省での政策的視野の中に入ったことで教育現場では急遽対応に迫られているのと同様に、アジア・オセアニア地域の多くの地域でも通言語的共通枠組みへの認識が強まることは必至の趨勢となる。

本科研では、EUの中でも中欧(ハンガリー)や北欧(フィンランド)の研究者に加えてアジア諸国の研究者との交流を通して、いわばCEFR-EU自体の再検討がありうること、続いて複数のCEFR-ASIAの可能性もありうること、そして、CEFR-Jなどのめざましい取り組みがなされている日本での、社会的要請から来る能力評価法の技術論のみではない、言語・文化コミュニケーション能力教育の総合的な理念と展望をもつ志向性が必要であると感じられる。

日本では多義的で曖昧な「グローバル人材」というような表現が用いられることが多いが、東京外国語大学を拠点とする我々の研究教育環境の中では、コミュニケーション・パートナーの多様性に対応しうる、複数の高度な言語能力と専門的な技能等を身につけ、地球社会の複層性・多元性を批判的に理解したうえで、異質の言語・文化間でアクティブに思考・行動できる人々を想定する。

これはEU的に言えばEUの基本的な理念でもある「複言語・複文化主義」の尊重であり、

これを前提として言語教育を構想する。単一の、あるいはごく少数の「グローバル・コミュニケーション言語」のみを重視する教育ではなく、言語・文化の多様性をふまえた複数言語の教育を具体化することでもある。他方、EU 統合体自体の均質的、さらに言えば EU ローカルの土壌に育った言語政策・言語教育政策、そのアウトプットのひとつである CEFR 自体を批判的に問い直すこと、そして世界各地の言語的、社会・文化的与件に適応した柔軟な評価システムをこちら側から提案することで相互作用的動きを創出する必要がある。その上で、富盛 (2014)<sup>7</sup>が本研究プロジェクトの中間報告書で示唆したように、CEFR のグローバル化が内包する種々の問題を深化し、言語を教え学ぶ行為をとおして「他者性」の発見と学習者・教師ともに双方向的に変容する潜在的可能性に気づくこと、これが、本研究プロジェクトが現在たどりつつある目前の道標であるといえよう。

## 5. 本研究プロジェクトの研究活動一覧

### 5.1 講演会・シンポジウム・研究会等（共催等を含む）

#### 第1回研究会

日時：2012（平成24）年6月15日 18:30～19:30 ※共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

「高等学校における複言語教育の現状・展望と大学教育との連携について」

発表者：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

#### 第2回研究会

日時：2012（平成24）年11月22日 16:30～18:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

発表1：「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準 ―日本学術会議公開シンポジウム―」（2012年7月14日、於 日本学術会議会議場）の報告

発表者：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）

発表2：「CEFR をめぐる EU の最新動向、およびルーマニアの主要大学における CEFR 導入の現状」

発表者：ミハイ・テオドラ（東京外国語大学 国際コミュニケーション通訳特化コース）

発表3：「韓国の外国語教育および外国語としての韓国語教育における CEFR 導入・応用の現状 ―事例を中心に―」

発表者：ソ・アルム（東京外国語大学大学院博士後期課程）

#### 第3回研究会

日時：2013（平成25）年2月1日 18:00～20:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

発表1：「アカデミック日本語教育におけるアカデミック・タスクの意義」

発表者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

発表2：「CEFR の日本の外国語教育・日本語教育における受容の実態」

発表者：浜津大輔（東京外国語大学大学院博士前期課程）

発表3：「紹介：“The Common European Framework of Reference –The Globalisation of Language Education Policy–”, Edited by Michael Byram and Lynne Parmenter」

<sup>7</sup> 富盛伸夫 (2014) 「CEFR のグローバル化と異文化間コミュニケーション能力の諸問題：Michael Byram and Lynne Parmenter (ed), *The Common European Framework of Reference – The Globalisation of Language Education Policy* – (Bristol, 2012) を読んで」, 『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 ―中間報告書 (2012-2013)― 』(編集代表, 富盛伸夫), 2014, 63-72.



発表者：富盛伸夫(東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員)

#### 国際シンポジウム(共催)

「外国語教育と異文化間教育」

日時：2013(平成25)年3月7日、8日 9:30～16:00

会場：東京外国語大学府中キャンパス アゴラ・グローバル3階

・3月7日(1日目)

“Cultural Exploration and Critical Reflection: Teaching of Language and Culture in Higher Education in Singapore”

発表者：CHAN Wai Meng(シンガポール国立大学)

「国際共通語としての英語教育と異文化理解」

発表者：鳥飼玖美子(立教大学)

「ことばのなかの文化/教室のなかの文化」

発表者：石川慎一郎(神戸大学)

“Rethinking Language Learning and Culture Learning”

発表者：吉田一彦(宇都宮大学)

15:10～16:10 全体討議 司会：栢田 清(四天王寺大学)

・3月8日(2日目)

“Cultural-Based Material Development for Teaching Indonesian for Non-Native Speakers (BIPA)”

発表者：UNTUNG Yuwono(インドネシア大学)

“The Effect of Staying in a Multicultural City”

発表者：丹羽京子(東京外国語大学)

“Introduction to World Englishes at Tertiary Education in Japan”

発表者：栢田 清(四天王寺大学)

11:40～12:00 全体討議 司会：富盛伸夫(東京外国語大学世界言語社会教育センター)

“The Renaissance of the Malacca-Portuguese Creole Language and Importance of Its Cultural Traditions”

発表者：MARBECK Joan Margaret(Malacca)

“Makista: Past, Present and Future”

発表者：NUNES Mário(University of Macau)

“National Identity, Education and Linguistic Diversity: Prospect and Politics in Brazil”

発表者：GUISAN Pierre(University of Rio de Janeiro)

15:40～16:00 全体討議 司会：富盛伸夫(東京外国語大学世界言語社会教育センター)

※主催：東京外国語大学世界言語社会教育センター(WoLSEC) / 共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

#### 第4回研究会

日時：2013(平成25)年5月17日 18:30～20:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

会場：語学研究所(東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室)

発表1：「ベトナムの言語教育—現地調査をとおして—」

発表者：田原洋樹(立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授)

発表2：「スペイン語教育とベトナム語教育」

発表者：高垣敏博(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

#### 講演会(共催)

“Unmasking bilingual lexicon”

日時：2013(平成25)年6月13日 16:00～17:30 ※主催：言語・情報コース

会場：語学研究所(東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室)

講演者：Naoko Witzel(テキサス大学アーリントン校准教授)

#### 第5回研究会

日時：2013(平成25)年7月26日 18:00～20:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

会場：語学研究所(東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室)

発表1：「報告「東京外国語大学における言語能力評価法についてのアンケート」に関する中間報告」

発表者：富盛伸夫(東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員)

発表2：「韓国の大学における韓国語教育の現状—言語能力評価指標の導入を中心に」

発表者：南 潤珍(東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授)

発表3：「沖縄県における言語教育の調査報告～中等教育を中心に～」

発表者：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

## 第6回研究会

日時：2013（平成25）年9月27日 18:00～20:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

発表1：「多文化関係学会 関西・中部地区研究会『グローバル人材育成と言語教育  
—アジアの未来とダイバーシティ—』の報告」

発表者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

発表2：「アジア・太平洋地域におけるCEFR導入の実態報告(1)—オーストラリア・ニュージーランド編」

発表者：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）

## 講演会

「外国語としてのカンボジア語教育」

日時：2013（平成25）年10月4日 12:40～14:10

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

講演者：VAN, Sovathana（カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教授）

※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、東京外国語大学語学研究所（ILR）

## 講演会（共催）

“Multicultural Europe: Swedish-Speaking Culture in Finland”

「ヨーロッパの多言語・多文化社会：フィンランドにおけるスウェーデン語文化」

日時：2013（平成25）年11月8日 18:00～20:00

会場：東京外国語大学 アゴラ・グローバル3階プロジェクトスペース

講演1：“Multicultural Mosaic of Europe” 「多文化のモザイクとしてのヨーロッパ」

講演者：チェル・ヘルベルツ（HERBERTS Kjell）

講演2：“Development of Swedish Literature in Finland” 「フィンランドにおけるスウェーデン語文学の成立」

講演者：クリスティーナ・マルミオ（MALMIO Kristina）

※主催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）／共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

## 第7回研究会

テーマ：「アジア諸国における外国語教育—現地調査より—」

日時：2013（平成25）年12月6日 18:00～20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

発表1：「ミャンマーの言語教育状況報告」

発表者：岡野賢二（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

発表2：「マレーシアの大学における外国語としてのマレー語教育の現状」

発表者：野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）

ウン・シンティ（東京外国語大学大学院博士前期課程）

※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、東京外国語大学語学研究所（ILR）

## 第8回研究会

「近未来日本のグローバル人材を育てる言語教育とは

—京都大学特別シンポジウム『グローバル人材と日本語』に参加して—」

日時：2014（平成26）年2月7日 18:00～20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

報告者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

コメンテーター：田原洋樹（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、東京外国語大学語学研究所（ILR）

## 第9回研究会

日時：2014年6月6日（金）18:00～19:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所（ILR）

場所：東京外国語大学語学研究所（研究講義棟4階419号室）

発表：「パキスタンの大学における英語、ウルドゥー語教育の現状～現地調査報告～」

発表者：萬宮健策（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

## 講演会

“Language Education in Finland with Special Reference to the Reception of CEFR”

(フィンランドにおける言語教育と言語能力評価システム—CEFR との関連で—)

日時：2014年7月9日(金) 18:00～20:10 ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

会場：東京外国語大学 語学研究所(研究講義棟4階419号室)

講演者：ヤルモ・ヤントゥネン [Jarmo Jantunen] (ユヴァスキュラ大学人文学部教授)

※講演言語：英語(通訳なし)

※一般公開、事前申込不要、参加費無料

## 第10回研究会

日時：2014年9月26日(金) 18:30～20:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

場所：東京外国語大学語学研究所(研究講義棟4階419号室)

発表：「シンガポールの言語状況と言語教育について—現地調査から—」

発表者：矢頭典枝(神田外語大学外国語学部准教授)

## 講演会

「バングラデシュの言語状況と言語教育政策について」

日時：2014年11月6日(木) 14:30～16:00

会場：東京外国語大学 語学研究所(研究講義棟4階419号室) ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

講演者：Dr. Sikder Monoare Murshed (シクダール・モノアレ・ムルシッド)(ダッカ大学言語学科教授)

※講演言語：英語(通訳なし)

※一般公開、事前申込不要、参加費無料

## 国際シンポジウム

«Expansion of CEFR into non-EU countries: perspectives and problems»

「CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠組み)の非EU諸国への拡大—その展望と問題点—」

日時：2015年1月23日(金) 15:00～19:00

場所：東京外国語大学 語学研究所(東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室)

<プログラム>

・講演1:

“A dialogic critique of Intercultural Communicative Competence applied in language learning and teaching”

「異文化間コミュニケーション能力の言語学習/教育への応用—その対話的考察—」

講演者：松尾・キャサリン (Prof. Catherine MATSUO、福岡大学)

・講演2:

“The Globalization of the CEFR reconsidered in a socio-cultural context”

「社会・文化的文脈からみたCEFRの世界的拡大」

講演者：シルモイ・モニカ (Prof. Monika SZIRMAI、広島国際大学)

・講演3:

“Foreign Language proficiency evaluation frameworks and problems of implementation of CEFR in Korea”

「韓国における外国語能力評価方法とCEFR導入の問題点について」

講演者：ウォン・ミジン (Prof. Won Mijin、延世大学)

※講演言語：英語

※参加費無料/事前申込不要

※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

## 第11回研究会 <予定>

日時：2015年3月27日(金) 17:00～19:00 ※共催：東京外国語大学語学研究所(ILR)

場所：東京外国語大学語学研究所(研究講義棟4階419号室)

発表1：「非EU言語学習者アンケート調査からみたCEFRの能力記述文とレベル設定の問題点

—特にアジア諸語学習者の事例から—」

発表者：富盛伸夫(東京外国語大学名誉教授)

発表2：「シンガポール国立大学国際シンポジウムおよびマレーシア・マラヤ大学出張報告」

発表者：富盛伸夫(東京外国語大学名誉教授)

発表3：「ALTE 5th International Conference, Paris (2014年4月10日～11日)の報告および言語教育最新動向」  
発表者：根岸雅史（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

## 5.2 海外調査等一覧

- ・調査者：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）  
調査期間：2012年11月22日～11月26日  
研究機関：沖縄大学、那覇国際高校、琉球大学、八重山高校（沖縄）
- ・調査者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）  
調査期間：2012年11月23日～11月26日  
研究機関：国際日本語教育・日本研究シンポジウム（香港城市大学）
- ・調査者：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）  
野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）  
富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）  
調査期間：2012年12月4日～12月11日  
研究機関：第5回シンガポール国立大学言語教育主催国際学会 CLaSIC 2012（シンガポール国立大学）
- ・調査者：矢頭典枝（神田外語大学英米語学科准教授）  
調査期間：2013年2月22日～2月23日  
研究機関：第7回京都言語文化教育研究会（京都大学）
- ・調査者：成田節（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）  
調査期間：2013年2月27日～3月1日  
研究機関：ドイツ語辞典研究会（島根大学）
- ・調査者：高垣敏博（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）  
田原洋樹（立命館アジア太平洋大学太平洋学部准教授）  
調査期間：2013年2月27日～3月6日  
研究機関：ホーチミン市国家大学社会科学人文大学、ホーチミン市外国語情報大学（ベトナム）
- ・調査者：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）  
調査期間：2013年3月10日～3月16日  
研究機関：オークランド大学、オークランド工科大学（ニュージーランド）
- ・調査者：南潤珍（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）  
調査期間：2013年5月2日～5月8日  
研究機関：ソウル大学、延世大学、韓国外語大学、国立国語院、世宗学堂財団（韓国）
- ・調査者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）  
調査期間：2013年7月20日～7月21日  
研究機関：関西学院大学（兵庫）
- ・調査者：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）  
調査期間：2013年8月11日～8月20日  
研究機関：ラトロープ大学、メルボルン大学、モナシュ大学、シドニー工科大学、ニューサウスウェールズ大学、シドニー大学、オークランド大学、オークランド工科大学（オーストラリア、ニュージーランド）
- ・調査者：岡野賢二（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）  
調査期間：2013年9月17日～9月22日  
研究機関：ヤンゴン外国語大学（ミャンマー）
- ・調査者：野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）  
ウン・シンティ（東京外国語大学大学院博士前期課程）

調査期間：2013年9月18日～9月28日

研究機関：マレーシア科学大学、マラヤ大学、マレーシア国民大学（マレーシア）

・調査者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

調査期間：2013年11月16日～11月17日

研究機関：「ビジネス日本語研究会」第11回研究会（兵庫）

・調査者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

調査期間：2014年1月25日～1月26日

研究機関：京都大学

・調査者：萬宮健策（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

調査期間：2014年2月27日～3月10日

研究機関：カラチ大学、パンジャブ大学オリエンタルカレッジ（パキスタン）

・調査者：矢頭典枝（神田外語大学英米語学科准教授）

調査期間：2014年2月26日～3月4日

研究機関：シンガポール国立大学（シンガポール）

・調査者：根岸雅史

調査期間：2014年4月8日～4月13日

研究機関：ALTE 5th International Conference, Paris（フランス）

・調査者：根岸雅史

調査期間：2014年9月19日～9月20日

研究機関：立命館大学：日本言語テスト学会（JLTA）第18回全国研究大会（滋賀）

・調査者：藤森弘子

調査期間：2014年9月14日

研究機関：信州大学：夏期公開研修会2014年「新しい言語教育観に向けて」（長野）

・調査者：富盛伸夫

調査期間：2014年12月2日～12月10日

研究機関：シンガポール国立大学（言語研究所主催 CLaSIC 2014）、マラヤ大学（マレーシア）

### 5.3 運営会議一覧

#### 第1回運営会議

日時：2012年6月15日 17:30～18:15

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第2回運営会議

日時：2012年11月22日 17:30～18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第3回運営会議

日時：2013年2月1日 17:00～18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第4回運営会議

日時：2013年5月17日 16:30～16:40

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第5回運営会議

日時：2013年7月26日 18:00～18:30

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第6回運営会議

日時：2013年9月27日 18:00～18:30

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第7回運営会議

日時：2013年12月6日 17:45～18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第8回運営会議

日時：2014年2月7日 17:45～18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第9回運営会議

日時：2014年6月6日 17:45～18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第10回運営会議

日時：2014年9月26日 17:45～18:30

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

#### 第11回運営会議

日時：2015年3月27日 16:30～17:00 <予定>

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟4階419号室）

---

#### <参考文献・関連サイト一覧>（本文の脚注に含まれないもののみ掲載）

大谷泰昭編（2010）『EUの言語教育政策 日本の外国語教育への示唆—』くろしお出版。

富盛伸夫（2009）「ヨーロッパ連合（EU）における高等教育改編と言語教育改革の問題点について」、『外国語教育研究』、外国語教育学会第12号, pp. 102-110.

富盛伸夫（編集代表）（2014）『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究—中間報告書（2012-2013）—』（研究代表者富盛伸夫、東京外国語大学、平成26年3月、125p.）

文化庁（2003）『EU拡大と言語政策に関する調査研究報告書』文化庁文化部国語課編。

山川智子（2008）「欧州評議会・言語政策部門の活動成果と今後の課題— plurilingualism 概念のもつ可能性—」『ヨーロッパ研究』（7）, pp. 95-114, 所収. 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター編. ([http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/download/es\\_7\\_Yamakawa.pdf](http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/download/es_7_Yamakawa.pdf))

Council of Europe, *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge University Press. 2001. ([http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/cadre1\\_en.asp](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/cadre1_en.asp))

Council of Europe, *Education and Languages, Language Policy. Languages in Education, Languages for Education. A platform of resources and references for plurilingual and intercultural education*. ([http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/langeduc/le\\_platformintro\\_EN.asp](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/langeduc/le_platformintro_EN.asp))

Lenz, Peter and Raphael Berthele (2010), *Assessment in Plurilingual and Intercultural Education*, in *GUIDE FOR THE DEVELOPMENT AND IMPLEMENTATION OF CURRICULA FOR PLURILINGUAL AND INTERCULTURAL EDUCATION SATELLITE STUDY N° 2*, Geneva. (Retrieved from [http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Source2010\\_ForumGeneva/Assessment2010\\_Lenz\\_ENrev.pdf](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Source2010_ForumGeneva/Assessment2010_Lenz_ENrev.pdf))

（本稿に引用の URL は 2015 年 2 月 14 日最終閲覧）